

ルツは自分の目標のために選択し、自分の権利を行使し、
自分の安息を求め、神のエコノミーのために褒賞を得る

聖書：ルツ第1章—第4章

- I. 士師記はイスラエルの悲慘な歴史の書であり、暗くて腐敗しています。ルツ記は士師記の付録として、一組の夫婦の卓越した物語の記録であり、明るくかぐわしいのです。この物語の主人公であるルツは、いばらから生長するゆり、暗い夜における明るい星のようです——ルツ第1章—第4章。
- II. ルツ記第1章が語っているのは、エリメレクが神のエコノミーの中の安息からそれて行くこと（ルツ1:1-2）、ナオミが神のエコノミーの中の安息に帰って来ること（3-7, 19-22節）、ルツが自分の目標のために選択すること（8-18節）についてです：
- A. ルツ記は安息の書です。安息日の安息は、わたしたちの安息としてのキリストであり、カナンの良き地で予表されています——申12:9. ヘブル4:8-9：
1. 神は七日目に安息しました。なぜなら、神はご自身が願っていたものを獲得したからです。神の心の願いは、人に地上で神のかたちにおいてご自身を表現させ、神の統治権をもってご自身を代行させることです——創1:26-28. ローマ8:28-29. II コリント3:18. ローマ5:17, 21. 啓5:9-10. 22:5。
 2. 旧約において、良き地は安息でした。なぜなら、宮がそこに建造されることができたからです。宮は、イスラエルの子たちが良き地の中へと入ったことの究極的完成でした。神は宮があることによって、ご自身の王国、統治、行政のために、ご自身の表現と代行を持つことができました——列王上8:1-11。
 3. キリストは三つの段階で、聖徒たちの安息です：
 - a. 天のキリストは召会時代に、神を表現し、代行し、神に満足を得させた方として、またご自身の働きから安息して、天で神の右に座している方として、わたしたちの霊の中で、わたしたちの安息です。彼はわたしたちの安息として、完全な平安また満ち満ちた満足です——マタイ11:28-29。
 - b. 千年王国において、サタンがこの地から取り除かれた後（啓20:1-3）、神はキリストと勝利を得た聖徒たちによって表現され、代行され、満足を得ます。その時、王国を伴うキリストは、勝利を得た聖徒たちのさらに満ち満ちた安息です。彼らは彼の共同の王となって（4, 6節）、彼の安息にあずかり、それを享受します。
 - c. 新しい天と新しい地において、すべての敵が、最後の敵である死を含めて、キリストに服従させられた後（I コリント15:24-27）、キリストは、すべてを征服する方として、神に贖われたすべての者の永遠にわたる最も満ち満ちた安息となります。
- B. エリメレクが良き地を離れたことが意味するのは、彼が神のエコノミーの中の安息からそれて行き、こうして自らを神のエコノミーから断ち切ったということでした。エリメレクは、良き地の最上の部分であるユダ（創49:8-10. 出3:8後半. 申8:7-10）の、来たるべきキリストの出生地であるベツレヘム（ミカ5:2. ルカ2:4-7）から、

偶像礼拝の国であるモアブ（士10:6）にそれて行きました。

- C. ナオミが聖地に帰って来たことは、彼女が神のエコノミーの中の安息に帰って来たことでした。彼女は偶像礼拝の国であるモアブから、インマヌエルの地（イザヤ8:8）であるユダに帰って来て、キリストの出生地であるベツレヘムに到着しました（ルツ1:19前半、22後半）。ナオミは彼女の嫁ルツと共に帰って来ました。ルツが神によってナオミに与えられたのは、キリストに関する神のエコノミーを完成するためです（22節前半）。
- D. ルツが選択した目標は、神の選民と共にキリストの享受にあずかることであり、彼女はキリストの重要な先祖、すなわち、キリストを人類の中へと生み出すことを助けた者となりました。この事は、ルツが神と神の王国を選択し、キリストに関する神のエコノミーを完成するためでした——マタイ1:5-6。
- III. ルツ記第2章が語っているのは、ルツが異教の背景から神に帰って来た者として、自分の権利を行使し、神の選民の嗣業の豊富な産物にあずかったことについてです：
- A. ルツは、寄留者、貧しい者、やもめとしての彼女の三重の身分にしたがって、自分の権利を行使し、刈り入れの落ち穂拾いをしました。彼女の落ち穂拾いは、乞い求めるのではなく、彼女の権利でした。
- B. 収穫物を刈り取ることにする神の規定は、イスラエルの子たちが畑の隅と落ち穂を、貧しい者、寄留者、みなしご、やもめに残しておくなら、エホバは彼らを祝福されるということでした——レビ23:22. 19:9-10. 申24:19。
- C. ボアズはこの規定に従い、こうしてエホバにある彼の大きな信仰を証しました。神の主権の下で、この規定は、一人の人、ルツのために書かれたかのようです。
- D. ルツが良き地に入って来た後、良き地の産物を享受する権利を得たように、わたしたちはキリストの中へと信じた後、権利を得てわたしたちの良き地としての彼を享受します。ルツが彼女の権利を行使して、良き地の産物を獲得し所有することが表徴しているのは、わたしたちがキリストの中へと信じて、わたしたちの「結合された」霊の中で彼に有機的に結合された後（ローマ8:16. I コリント6:17）、キリストを追い求め始めて、彼を獲得し、所有し、経験し、享受しなければならないということです（ピリピ3:7-16）。
- E. ルツ記は、罪人がキリストにあずかりキリストを享受する道、地位、資格、権利を描写しています。神の定めにしたがって、キリストの中へと信じたわたしたちは、資格づけられ地位が与えられ、キリストを享受するというわたしたちの権利を主張します（コロサイ1:12. 啓2:7. 22:14）。
- F. ルツ記の記載は、愛らしく、感動的で、説得力があり、納得させられるものです。第2章のかぐわしい物語には、以下の四つの予表が暗示されています：
1. ボアズは財力において豊かであって（ルツ2:1）、神聖な恵みにおいて豊かであるキリストを予表しています（II コリント12:7-9）。
 2. 神の約束された良き地の畑は（ルツ2:2-3）、すべてを含むキリストを予表し、彼は神の選民に対する命の供給のための、すべての霊的で神聖な産物の源です（ピリピ1:19-21前半）。
 3. 大麦と小麦は（ルツ2:23）、神と神の民の食物を作る材料としてのキリストを予

表します（レビ第2章．ヨハネ6:9, 33, 35）。

4. モアブ人の女ルツは、神の約束から除外された異教の罪人であり（申23:3. 参照、エペソ2:12）、権利を得て神の選民の刈り入れの落ち穂拾いにあずかりました。これは、異邦人の「犬」が特権を得て、食卓の下にある、神の選ばれた子供たちの分け前である、パンくずとしてのキリストにあずかることを予表します（マタイ15:21-28と27節のフットノート1）。

IV. ルツ記第3章が語っているのは、ルツが自分の安息を求めることについてです：

A. 「[ルツの] しゅうとめのナオミは彼女に言った、『わたしの娘よ、わたしはあなたのために安息する場所を捜し求めて、あなたを幸いにしてあげるべきではないでしょうか？』」——ルツ3:1：

1. ナオミは、ルツの夫となる適正な人が、ボアズであることを認識していました。ですから、ナオミは「仲介者」として行動し、ルツが結婚するように促しました。
2. 新約の真の奉仕者はナオミのようであり、彼らはキリストにある信者たちをかき立てて、彼を彼らの花婿として愛させ、彼を彼らの夫とするようにします——Ⅱコリント11:2. 啓19:7. 21:9-10。
3. わたしたちが安息を持つための唯一の方法は、キリストをわたしたちの夫とすることです。わたしたちは、キリストをわたしたちの夫として認識し、彼をわたしたちの夫とし、彼との最も密接な、最も親密な接触の中で生きなければなりません——Ⅰコリント2:9. 参照、16:22。
4. もしわたしたちがキリストと結婚し、彼をわたしたちの夫とするなら、わたしたちの生活は変えられます。わたしたちは、妻の貞節を持たなければならないことを認識し、どのようにしてキリストをわたしたちの命またパースンとして享受し、彼と一の中で歩み、振る舞うかを学ぶでしょう——Ⅱコリント2:10。

B. ルツは良き地に来て、彼女の権利を行使してその豊富な産物を享受した後、安息を得ることができる家をなおも必要としました。このような安息は、ただ結婚を通してのみ得ることができました：

1. わたしたちは救われて主を愛しているかもしれませんが、わたしたちの安息のための家を得るために、主イエスに嫁ぎ、彼をわたしたちの夫とし、わたしたちの家としての召会の中で、彼と共に生きなければなりません——ローマ7:4. Ⅱコリント11:2. エペソ5:25-27。
2. わたしたちの夫としてのキリストと、わたしたちの家としての召会は、一つの完全な単位であり、わたしたちが正常で十分な安息を得るためです（32節）。

C. マタイ第1章5節から6節と16節の観点から考察すると、ルツが自分の安息を求めることは、実はキリストをもたらず系譜の継続のためでした。

D. ボアズはルツに次のように告げました、「わたしは血縁者です。しかし、わたしよりも近い血縁者がいます」——ルツ3:12：

1. ルツ記第3章12節で、ルツの夫の第一の血縁者、ルツの最も近い血縁者は、わたしたちの天然の人を予表します。わたしたちの天然の人は、わたしたちを古い人の負債（罪）から買い戻すことはできませんし、買い戻すことはありません（4:1-6）。

2. ボアズはルツの夫の第二の血縁者であり、キリストを予表しています。彼は血と肉にあずかり（ヘブル2:14）、わたしたちの血縁者となり、わたしたちを罪から贖い、神の創造におけるわたしたちの天然の人の失われた権利を回復し、彼とわたしたちとの神聖で有機的な結合の中でわたしたちの新しい夫となることができます。彼はわたしたちを彼の配偶者としてめとり、彼を増し加わらせることができます（ルツ4:7-13）。

V. ルツ記第4章が語っているのは、ルツが神のエコノミーのために褒賞を得ることについてです：

- A. ルツは神のエコノミーのための彼女の褒賞の一部として、買い戻す夫を得ました。その夫は、信者たちの贖う夫としてのキリストを予表します。今やキリストにある信者として、わたしたちには永遠の、現在の、日ごとの贖い主である夫がいて、わたしたちをすべての困難から助け、救い、解放してくださいませ。
- B. ルツは、買い戻す夫を得たことに加えて、死んだ夫の負債から買い戻されました（ルツ4:1-9）。これは、信者たちが彼らの古い人の罪から贖われたことを予表します：
1. ローマ第6章6節と第7章2節から4節によれば、死んだ夫、わたしたちの古い夫は、わたしたちの古い人です。神はわたしたちを創造して彼の妻とされましたが、わたしたちは彼に敵対して反逆しました。わたしたちは彼を捨てて、自らのために夫の地位を取ってしまいました。
 2. わたしたちの罪深い夫は、多くの負債をわたしたちに負わせました。しかし、わたしたちはキリストと結婚した日、全能の、大能の贖い主である夫を受け入れたのです。わたしたちはみな、わたしたちにとってそのような夫であるキリストを必要とします。そしてわたしたちは常に彼に来て、ただこう言うべきです、「主イエスよ、わたしはあなたを必要とします」。
- C. ルツの褒賞のもう一つの面は、ルツが系譜の中で重要な先祖となって、キリストを生み出すためにダビデの王家をもたらししたことです（ルツ4:13後半-22、マタイ1:5-16）。これは、ルツが、すべてを含む、すべてに拡張する益と、キリストを人類へともたらし地位と能力を得たことを示します。彼女はこうして、キリストを地の隅々までもたらし鎖の、結びつける重要な部分です。
- D. ルツは系譜の中で重要な先祖となって、キリストを生み出しただけでなく、キリストの肉体と成ることのために、神の創造された人性の路線を継続しました。キリストの肉体と成ることは、キリストを永遠から時間の中へともたらし、キリストを彼の神性と共に人性の中へともたらし事柄でした：
1. わたしたちのクリスチャン生活は毎日、キリストの肉体と成ることの継続であるべきです。それによって、わたしたちがキリストをその霊として人々の中へと供給することを通して、キリストがもたらされ、人々の中へと生まれることがあるべきです——Ⅱコリント3:6。
 2. この事が起こるためには、わたしたちがみなキリストのために語り、キリストを語り出し、キリストを人の中へと語り込む必要があります。このようにしてキリストを供給することは確かに、わたしたちとわたしたちが顧みている人たちを新陳代謝的に変えます。それはわたしたちがキリストのかたちへと造り変えられる

ためです——Ⅱコリント3:18. 4:1。

© 2021 *Living Stream Ministry*